



「羽仁もと子とその時代」が1冊に!!

# じよっぱりの人

森まゆみ 著

「じよっぱり」はもと子の故郷・青森では、信じたことをやり通す強さをいう言葉。よいことは必ずできると信じて、多くの人を巻き込みながら突き進んだ、もと子。近代女性史に大きな足跡を残したその姿が、明治・大正・昭和の時代の中で、鮮やかに浮かび上がります。

## ◎ 推薦のことば

「あんな女性が八戸から出てきて、工夫と努力であれだけの仕事をした。立派な先生なことは確かだけど、あのしわくちゃのおばあちゃんが突発的にすごいことを言うところが面白いのであってね。僕はかわいくて、ユーモラスなおばあちゃんが好きだった。あの人は『自分の頭で考える』ということですよ」 本文より

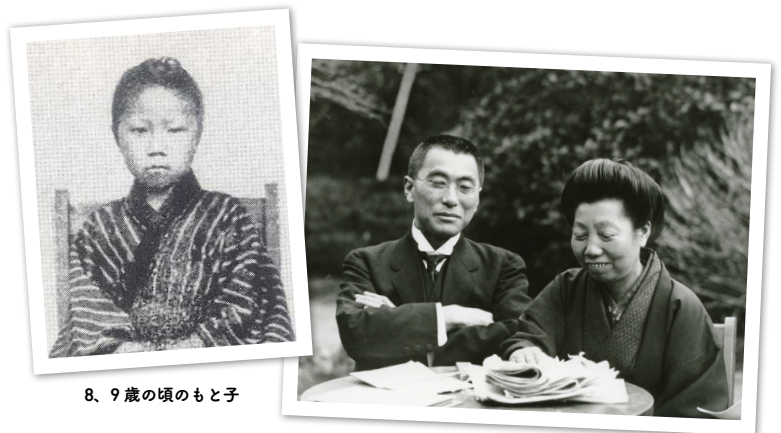
羽仁進さん（映画監督・羽仁もと子の孫）

A5判 432ページ  
3,300円（税込）



### 森まゆみ

1954年、東京生まれ。作家。1984年、地域雑誌『谷中・根津・千駄木』創刊。休刊まで編集長を務める。『鴉外の坂』ほか著書多数。21年より『婦人之友』に「羽仁もと子とその時代」を連載。番外編が21年春に完結。



8、9歳の頃のもと子

自由学園の創立を前に、相談する羽仁夫妻

## 内容より

### 第1部 青森の少女、新聞記者になる

八戸に生まれて／上京を迫って／自由民権とキリスト教／明治女学校へ／最初の恋愛、結婚、離婚／女性記者となる／岡山孤児院と西有穆山、そして再婚／『家庭之友』創刊／中産階級の視点／日露戦争と家計簿／次女涼子の死／『婦人之友』への統合／『婦人之友』の船出／明治が終わる／大正デモクラシーと第一次世界大戦／『子供之友』と『新少女』

### 第2部 火の玉のように、教育者、事業家へ

自由学園創立／洋服の時代／関東大震災／震災後の救援読者組合の組織化、著作集発行／消費組合の結成／「友の会」の誕生／ただ一度の外遊／羽仁五郎の受難／木を植える男－羽仁吉一と男子部設立／東北の大凶作とセツルメント／戦争への道／北京生活学校／幼児生活団と生活合理化と／那須農場開拓と戦争の犠牲／敗戦から立ち上がる／引揚援護活動／二人手を携えて

ご注文主様

お名前（ふりがな） \_\_\_\_\_

住所 〒 \_\_\_\_\_

TEL \_\_\_\_\_

羽仁もと子とその時代  
じよっぱりの人 3,300円（税込）  
\*送料は小社負担

冊

〒171-8510  
東京都豊島区西池袋 2-20-16  
婦人之友社

TEL 03-3971-0102  
<https://www.fujinnotomo.co.jp>



FAX 03-3982-8958  
(24時間)